



# 南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク



## 海・山・川のダイナミズム

～ かつての海底が雄大な山脈をつくる。  
大地を動かす地球のエネルギーを知るジオパーク～



■中央構造線の谷(中川和之・日本ジオパーク委員会委員提供)

### 特色1 付加体 ー高い山の上に遠い海からやってきた岩石があるー

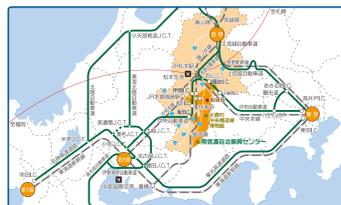


■遠い海の底でできた岩石が多く見られる塩見岳

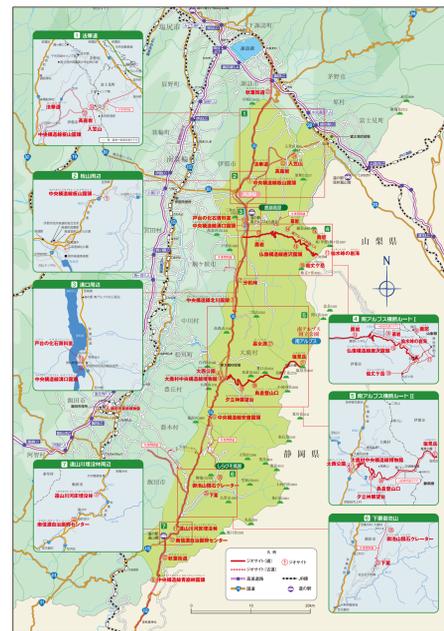
南アルプスの山々をつくる岩石は、もともとは海の底にあったものからできています。何億年も前に、遠い海の底に積もったプランクトンの殻や火山島のまわりでできたサンゴ礁が海洋プレートの移動によって数千km運ばれてきて、川から運ばれてきた陸地の砂や泥とともに大陸プレートへ付加体としてつけ加わりました。そしてこの付加体は数千m以上持ち上げられて、今では、3000m級の山々からなる南アルプスをつくっています。



■塩見小屋付近のチャート



飯田市・伊那市・富士見町・大鹿村

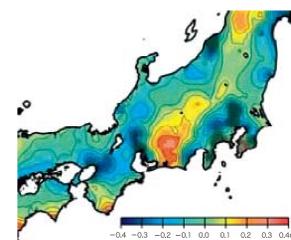


### ジオパークとは

ジオパークは、地球活動の遺産を主な見所とする自然の中の公園です。ユネスコの支援により2004年に設立された「世界ジオパークネットワーク」を中心に、世界各国で推進されています。

南アルプス(中央構造線エリア)ジオパークでは、日本列島の土台を作った「プレートの沈み込み」にまつわるさまざまな現象を一挙に観察することができます。

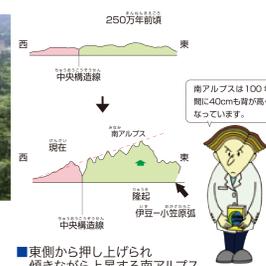
### 特色2 世界第一級の隆起と侵食 ー大地が動き続けるー



■過去100年間の観測でわかった地形の上下の変化(国土地理院)



■数沢崩壊



■南アルプスは100年間に40cmも高くなっています。

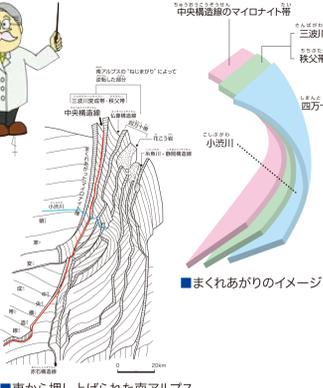
■東側から押し上げられ傾きながら上昇する南アルプス

### 特色3 伊豆・小笠原弧との衝突 ー折れ曲がった南アルプスー



■地層が捻じ曲がって西へ傾いた幕岩

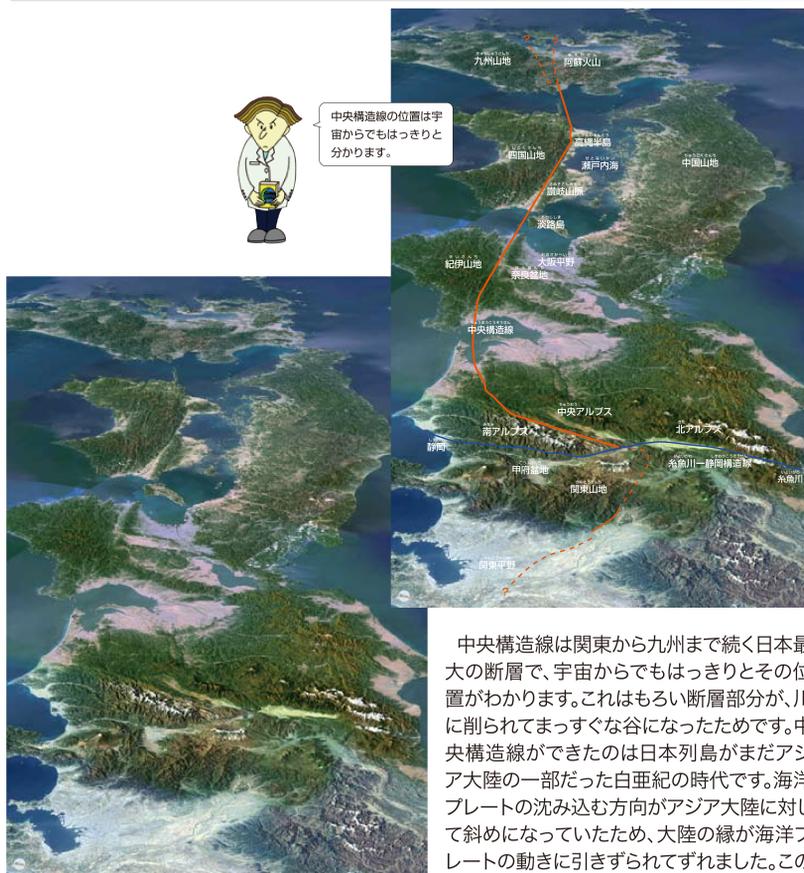
2000～1500万年前頃、伊豆・小笠原諸島を乗せているフィリピン海プレートが、本州が乗るユーラシアプレートの下に沈み込み始めました。そこに連なっていたいくつもの火山島は、次々と本州にぶつかりました。このため、本州の南部は北へ押し曲げられてしまいました。南アルプス北部では押されたことにより、地層が捻じ曲がって、まくれあがったようになっています。南アルプスはダイナミックな地殻変動を観察できる世界でも特異な場所なのです。



■まくれあがりのイメージ

■東から押し上げられた南アルプス  
松島信幸「赤石山地の中央構造線に対する新しい見方」をもとに作成

### 特色4 中央構造線 ー日本一の大断層ー



■中央構造線の位置は宇宙からでもはっきりと分かります。

中央構造線は関東から九州まで続く日本最大の断層で、宇宙からでもはっきりとその位置がわかります。これはもろい断層部分が、川に削られてまっすぐな谷になったためです。中央構造線ができたのは日本列島がまだアジア大陸の一部だった白亜紀の時代です。海洋プレートの沈み込む方向がアジア大陸に対して斜めになっていたため、大陸の縁が海洋プレートの動きに引きずられてずれました。このずれた境界部分の断層が中央構造線です。

### ジオパークを体験する



■伊那谷自然友の会のジオツアー



■「戸台の化石」学習会



■南アルプス林道バス



■南アルプス(中央構造線エリア)ジオパーク案内人  
ジオ博士 助手の構造くん